

文法的逸脱に関する一考察

— インターネット上の「～ずにはいられない」に焦点を当てて —

松岡知津子・岡本 智美

**A note on Grammatical Deviation:
Focus on *~zu ni wa irarenai* as used on the Internet**

MATSUOKA Chizuko, OKAMOTO Tomomi

〈Abstract〉

This study deals with instances of grammatical deviation of the *~zu ni wa irarenai* construction as found on the Internet, and classifies them by type. Further, the study finds that there are two types of grammatical deviation, one of them generated by confusion with the meaning of the *~zu ni wa okanai* construction, and one by misinterpreting the construction as having the opposite meaning. The study also considers possible causes for this deviation. In addition, a questionnaire survey of Japanese university students in their teens and twenties was performed, which found 1) a high degree of acceptance of the deviant examples of the *~zu ni wa irarenai* construction and 2) a low degree of awareness of the *~zu ni wa okanai* construction.

キーワード：文法的逸脱、「～ずにはいられない」、インターネット、混同、二重否定

1. はじめに

日本語教師が授業において新しい表現を提示する場合、多くの例文を提示する。その際に、教師は準備段階でネット上の文章などを参考にして例文を収集することも多いだろう。しかしながら、日本語母語話者が書いたと思われる文でも、文法的に逸脱していると思われる表現に遭遇することが多々ある。例えば以下のような例である。下線は筆者による。

- (1) 毎年立てられるテーマに添って、花火が打ち上げられる。その色合いは見ている人を魅了せずにはいられない¹。
- (2) もう退団して過去の人となってしまったが、やはり彼のことを忘れずにはいられない²。

これらは、ネット上で見られる例である。

¹ http://www.jalan.net/jalan/doc/theme/hanabi/24_hanabi 07.html (検索日：2010/05/01)

² <http://www.mikamitravel.com.es/futbol-20060616.html> (検索日：2010/05/01)

文法的逸脱について、野田(2002)は「逸脱した表現は、文法や語彙の体系の隙間を埋めるようにして生じることもあるし、曖昧な境界線をまたぐようにして生じることもある。」と述べている。

田野村(2004)は周辺・例外に関して、言語資料の量と種類の拡大によって、従来の感覚・基準からすれば周辺・例外となる用例が見出されることになるかと述べている。また、このことは周辺・例外をどう処理すべきかという問題を提起し、日本語とはどのような範囲のものなのかということについて反省を促すものであると指摘している。この問題は、我々日本語教師にとってもどのような日本語を学習者に提示していくかということを変更して考え直すきっかけになるのではないだろうか。

そこで、本研究では、まず、ネット上に見られる文法的逸脱例「～ずにはいられない」のうち、出現回数の多いものを抽出する。そして、それらの表現にはどのような傾向が見られるか、また、なぜそのような逸脱が生じるのかについて検討する。次に、それらの逸脱表現が日本語母語話者によってどのように捉えられるのかを調査するために、10代、20代の日本人大学生に質問紙でのアンケート調査を実施し、これらの表現が日本人大学生にどのように認識されているかを明らかにする。

2. インターネット上における逸脱例

1でみたような逸脱例をインターネット上では比較的容易に見つけることができる。他にも次のような例がある。

(3) 参加車両の中には博物館でも見ることも稀で貴重な車両も参加し、見るもの参加するものいずれをも感動させずにはいられないイベントです³。

(4) この映像は見なければいけない、見逃さずにはいられない⁴。

これらの例は珍しいものではない。たとえば「魅了せずにはいられない」という表現自体は google で検索すると 2,470 件もヒットし、上位 50 件目までの検索結果を分析したところ 46 件の逸脱例が見られた。他の表現についても同様に検索結果の精査を行った。

³ <http://blog.webtravel.jp/partner14/index.php?itemid=309> (検索日: 2010/05/01)

⁴ <http://www.j-wave.co.jp/blog/releyes/archives/2009/12> (検索日: 2010/05/01)

表1 google による検索結果⁵

	ヒット件数	実際の表示件数	上位 50 件までの検索結果			
			正用	逸脱	重複	その他
魅了せずにはいられない	2,470	196	0	46	1	3
感動させずにはいられない	52,700	70	0	35	11	4
忘れずにはいられない	1960,000	69	2	25	16	7
見逃さずにはいられない	292,000	124	0	36	11	3

それでは、どんな時に書き手は「～ずにはいられない」を逸脱して使用してしまうのであろうか。ここで、前述したインターネット上における逸脱例に注目したい。これらは、個人のブログ、企業のサイトなどで見ることができるが、商品、サービスなどを薦めるような文脈での使用が目立った。これらの表現は単に「感動させる」「忘れられない」「見逃せない」に比べ、より内容を強調したいような文脈および場面で用いられているようであった。そのため、広告文などでの使用が多いものと思われる。

3. 逸脱が生じる要因の検討

3-1 「～ずにはおかない」との混同

教師用参考書では「～ずにはいられない」は「感情や身体的な欲求など内的な要因による不可避を表す」(庵 2001) や、「自分の意志の力では抑えられないで、そうしてしまうという話し手の気持ちを表す」(市川 2007) などと説明されている。

また「夏子を感じさせずにはおかない作品」「夏子を感じせずにはいられない作品」のように、「～ずにはいられない」は「～ずにはおかない」と構文的に表裏の関係にある(森田・松木 1989)。よって(1)の例は、本来であれば以下のように表現すべきである。

(1') その色合いは見ている人を魅了せずにはおかない。

このように構文的に表裏の関係にある場合、モノを主語とするのであれば「～ずにはおかない」を使うのが適当である。先に見た(3)も「モノがヒトを感動させずにはおかない」と「ヒトがモノに感動せずにはいられない」のように構文的に表裏の関係をもつものである。つまり、(1)や(3)のような逸脱は、「～ずにはおかない」との混同によって生じた可能性がある。あるいは「～ずにはおかない」が日本語母語話者によってあまり頻繁

⁵ 検索は2010年2月から3月にかけて行った。ヒット件数は検索日時によって変動することが指摘されている。表中の「実際の表示件数」とは、実際にアクセスできたサイトの数である。「重複」とは、別のサイトで同じ用例が見られた件数であり、正用、逸脱の用例数には含めなかった。「その他」とは、正用かどうか判断がつかなかったものや、日本語能力試験対策の練習問題の選択肢として使用されていたものなどである。

に使用される表現ではないために、「～ずにはいられない」が用いられるのではないだろうか。

野田 (2002) は、前述したように、逸脱について「文法や語彙の体系の隙間を埋めるようにして生じることもあるし、曖昧な境界線をまたぐようにして生じることもある」と述べている。上記の例について考えてみると、日本語には「魅了せずにはおかない」という文型が存在することから、この場合は体系の隙間を埋めるようにして生じたというわけではない。しかし、この表現を発した日本語母語話者の中において「～ずにはおかない」という文型が使用文型でない場合、あるいは存在していない場合、その隙間を埋めるようにして生じたのが上記のような例であると考えることができるのではないだろうか。

3-2 逆の意味での使用

一方、(2) は、あるサッカー選手についての一文であるが、文字通り解釈すると「どうしても忘れてしまう」ということになり、本来伝えたいと推測される「彼のことをどうしても忘れることができない」という内容とは全く逆のことを表してしまうことになる。つまりここでは、「～ずにはいられない」が、「どうしても～することができない」の意味で使われている。このタイプの逸脱例は、「～ずにはおかない」のような対応する表現を持たない。(4) も同様に、本来とは逆の意味で使われている例と言えるだろう。ほかにも「皆さんも今後の政治情勢から目を離さずにはいられないのです。」などという例もある⁶。本来なら「～ずにはいられない」は二重否定であるが、このような逸脱例においては、なぜ二重否定の意味ではなく、単なる否定の意味で使われているのであろうか⁷。

ここで、このようなタイプの逸脱例に見られる動詞の持つ意味の成分に着目してみよう。「忘れる」という動詞は「覚える」という行為と「それを行わない／行えない」という否定の意味の2つの要素から成ると言えよう。同様に、「見逃す」は「見る／見つける」という行為と、それを「行わない／行えない」という否定的意味の組み合わせによるものであるということが出来る。「目を離す」も「あるものを見る」という行為をしていて、「それを見なくなる」ということになるだろう。つまり、これら逆の意味で使用されるような逸脱例で見られる動詞の多くは「行う」または「見る」といった行為と「それを行わない」という否定の意味成分を含む動詞であると言うことができよう。

通常であれば「～ずにはいられない」という二重否定表現を使用する場合、まず「～ず」

⁶ <http://www.news.janjan.jp/sakaiya/politics/index.php> (検索日：2010/05/01)

⁷ 田野村 (2004) でも、「言語における法則性、体系性の形成において働いたはずの目に見えない力がなぜその例外においては効力を持ち得なかったのかということは興味深い例である。」と指摘されている。

の部分で動詞を否定の意味に変える処理が必要である。さらに「～いられない」によって、それを再度否定するわけである。しかし、「忘れる」や「見逃す」といった動詞は、上で述べたように、動詞自体に否定の意味成分が含まれているため、「忘れずにはいられない」は「覚える」、「それを行わない」、「ず」、「いられない」と分解することができ、否定の要素が3つになると考えられる。そのため、「ず」の部分で行うべき否定の処理を行った気になってしまうのではないだろうか。その結果、「忘れる」が「～られない」の部分とだけ結びついてしまい、「忘れられない」という意味で使用されるのではないだろうか。

このタイプの逸脱例は、3-1でみたような例に比べると、文章を改めて見れば逸脱に気付く場合も多いのではないかと思われる。しかしながら、深く考えずに書いたり聞いたりする場合には、意味の処理が追いつかず逸脱が起こりやすくなってしまっているのではないだろうか。いずれにしても、このようなタイプの文法的逸脱が数多く観察されるのは興味深い事実である。

4. 文法的逸脱に関するアンケート調査

前節でみたように、「～ずにはいられない」には大きく2つのタイプの逸脱が観察された。すなわち、3-1でみた「～ずにはおかない」との混同と推測される表現、そして、3-2でみた「忘れずにはいられない」のような、逆の意味に解釈される逸脱例である。

本節では、これら2つのタイプの逸脱例が日本語母語話者によってどのように認識されるかを調べるために、日本語母語話者を対象に質問紙による調査を行った。具体的には、以下の点について調べることを目的とした。まず、「～ずにはおかない」という表現が、日本語母語話者にとって認知度が低いのではないかという点である。インターネット上に現れた例を精査したところ、「～ずにはおかない」とするべき表現を「～ずにはいられない」で代用している場合が見られたため、「～ずにはおかない」を用いた表現が、日本語母語話者によってどう判断されるかを調べた。次に、「～ずにはいられない」という表現の使用範囲が広がりつつあるのではないかという点について検証することである。逸脱表現となる「～ずにはいられない」を日本語母語話者がどの程度「自然である」と判断するかということ調べた。最後の点は「忘れずにはいられない」というような、本来の意味とは反対になるような表現は、「魅了せずにはいられない」のようなタイプの逸脱例と比べ、アンケートによって文字化されると逸脱だと判断されやすいのではないかという点を調べる為である。調査対象者は10代～20代の本学大学生18名である。

調査は、文法的逸脱表現「～ずにはいられない」およびその対応表現である「～ずにはおかない」を含む10文が日本語として自然かどうかを判断してもらうものである。自然

であると判断した場合は○を、不自然だと判断した場合は×をつけ、×の場合には自然だと考える表現を書いてもらった⁸。

表2 日本人大学生に対する調査結果

		自然だと判断した人数	不自然だと判断した人数
正用	そのメロディは聴く者を感動させずにはおかない	5	13
逸脱	彼女の笑顔は、人々を魅了せずにはいられない	6	10
	彼には本当に感謝している。私は彼の親切を忘れずにはいられない	9	9

表2を見ると、「感動させずにはおかない」という正用の文を13名もの日本人大学生が「不自然」だと判断していることがわかる。興味深いことに、13名のうち7名が「～ずにはいられない」を用いた文、すなわち「そのメロディは聴く者を感動させずにはいられない」という逸脱文に書き直しているという点である。この結果から、「～ずにはおかない」は日本人大学生の中で認知度が低いことが伺える。

次に、「魅了せずにはいられない」という逸脱例について見ると、6名が「自然である」と判断している。また、10名が「不自然である」と判断しているものの、文法的に正しく訂正していたものは、そのうち6名であった。そのいずれの場合も「～ずにはおかない」と訂正した人はおらず、「彼女の笑顔は人々を魅了する」のように訂正していた。「不自然である」と判断した人のうち4名が「彼女の笑顔は人々を魅了させずにはいられない」など、別の逸脱文を産出していたことも興味深い。このことから、「～ずにはおかない」の認知度は低く、その一方で「～ずにはいられない」が広く使用されていることが伺える。

「忘れずにはいられない」という逆の意味になる逸脱例については、上記の2例に比べると、逸脱だと判断した人が比較的多く9名に上った。そして、訂正された文をみると、正しく訂正されていた。

5. おわりに

本研究では、「～ずにはいられない」という表現における文法的逸脱を見てきた。その結果、大きく2つのタイプの逸脱が見られることが明らかになった。すなわち、1. 「魅了させずにはいられない」のように「～ずにはおかない」との混合によると思われるタイプ、

⁸ 10文のうち本研究に直接関連する文は3文のみである。残りの7文は、本調査の意図が調査対象に分からないようにディストラクタとして用いた。

そして2. 「忘れずにはいられない」のように、「～ずにはいられない」によって表される意味が本来書き手が言わんとしている意図とは逆の意味になってしまうようなタイプである。

そして、それらの逸脱例が、実際に日本人大学生によってどのように認識されているかについての調査を行った。その結果、「～ずにはおかない」の認知度が低く、逸脱例である「～ずにはいられない」が受け入れられていることが明らかになった。また同じ「～ずにはいられない」でも、逆の意味になってしまう「忘れずにはいられない」の方は、正しく訂正できていた割合が他方にくらべて高かったことから、同じ逸脱例でも動詞のタイプによって認識が異なる可能性があることが示唆された。この点については今後の研究で詳しく追及していきたい。

また、本研究では日本人大学生を対象とした調査を行ったが、40代、50代以上の日本語母語話者や上級日本語学習者などにも調査の対象を広げ、「～ずにはおかない」「～ずにはいられない」およびさまざまな逸脱表現がどのように認識されているのかについて詳しく見ていきたい。

【引用文献】

- 庵功雄他（2001）『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
 市川保子（2007）『中級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク
 田野村忠温（2004）「周辺性・例外性と言語資料の性格—その相関の考察—」『日本語文法』4巻2号 pp.24-37.
 野田春美（2002）「歌詞における文法的逸脱とその許容度」『神戸学院大学人文学部紀要』第22号 pp.11-27.
 森田良行・松木正恵（1989）『日本語文型表現』アルク

【資料1】その他の逸脱例

(1) 人間の資源採取と不用物排出は、自然界に何がしかの影響を与えずにはいられないが、それがわずかである場合には、排出される不用物はこの循環のシステムにより再び資源に転換されるため、その影響はわずかなものに留まっていた。

<http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/honbun.php?3?kid=206&serial=8681> (検索日: 2010/11/21)

(2) 残る本とは、必ず他の誰かに影響を与えずにはいられない本であり、また何かに影響されて書かれた本である。

http://blog.livedoor.jp/s_hakase/archives/114873.html (検索日: 2010/11/21)

(3) 何とこのようなかわいらしいポスターまで作っていただいちゃいました。

これぞまさにクリスマス! という雰囲気を感じさせずにはいられないポスターです。

<http://www.kyosho.com/blog/manoi/index.php?month=0712&view=3> (検索日: 2010/11/21)

(4) 個人的には、たとえ静止状態であってもその秘めたる能力を感じさせずにはいられない、機能をかたちにしたかのようなアグレッシブなデザインであると感じます

<http://gun.sakura.ne.jp/997-996.html> (検索日: 2010/11/21)

(5) ちょっと前の、亀田3兄弟次男の試合中継で、気になった一言がありました。

それは、試合開始前にアナウンサーが興奮して発したこんな実況。「まさに世紀の一戦、目を離さずにはいられません！」ん?目を離さずにはいられない?離しちゃ駄目じゃん!

http://blog.chrisryu.com/2006/03/post_87.html (検索日: 2010/11/21)

(6) 物心ついた頃から、何の疑いもなく自分はシンガーになるものだと思っていたというエピソードからもうかがえるその天性の歌声は、聴く者を魅了せずにはいられない。

<http://fmosaka.net/851/powerplay/2004.shtml> (検索日: 2010/11/21)

(7) 毎日毎日たくさんの人に支えられ助けられて生きている。そして、お彼岸といえご先祖さまへの感謝を忘れずにはいられない。

<http://thankyounowa.mie1.net/e166212.html> (検索日: 2010/11/21)

(8) 47歳という若さで波乱の生涯を閉じたエディット・ピアフの唄った歌は、人々をいつまでも感動させずにはいられないパワーを永遠に持ち続けている。

<http://members.jcom.home.ne.jp/0340305001/cinema.html> (検索日: 2010/11/21)

(9) 日本で急速に知名度を広げつつある彼女の動向を、見逃さずにはいられない!

<http://www.vibe-net.com/news/?news=2001620> (検索日: 2010/11/21)

【資料2】アンケート用紙

アンケートのお願い

日本語の使用に関する調査を行っています。以下の文は日本語として自然だと思いますか。自然だと思う場合には（ ）の中に○を、不自然だと思う場合には×を書いてください。また、不自然だと思う場合には、自然だと思う表現に書き直してください（何通り書いてもかまいません）。これはテストではありませんので、直感でお答えください。

例1：天気予報によると明日は雨が降りそうです。（ × ）

→天気予報によると明日は雨が降るそうです。／天気予報によると明日は雨が降るらしいです。

例2：3に5を加えると8になります。（ ○ ）

1. その時計は5分遅れています。（ ）
2. そのメロディは聴く者を感動させずにはおかない。（ ）
3. 私は毎日歯を磨いてからご飯を食べることにしています。（ ）
4. 彼女の笑顔は、人々を魅了せずにはいられない。（ ）
5. 昨日は私の誕生日だった。父が私に本を買ってあげた。（ ）
6. その男性は誘拐事件に巻き込まれた恐れがある。（ ）
7. 強風と大雨があいまって台風の被害は予想以上のものとなった。（ ）
8. 彼はアメリカの大学に留学していたそうだが、その割には英語が話せない。（ ）
9. 遊びであれ仕事であれ、夢中になれるのは素晴らしいことだと思う。（ ）
10. 彼には本当に感謝している。私は彼の親切を忘れずにはいられない。（ ）

最後に、年齢と職業について該当するものをお選びください。

- ①年齢 a.20代 b.30代 c.40代 d.50代 e.60代 f.70代
②職業 a.学生 b.社会人 c.その他 ()

ご協力ありがとうございました。